

平成20年度（第52回）  
岩手県教育研究発表会発表資料

社会 / 地歴・公民

# 中学校社会科における社会的な見方や考え方を 育成する指導と評価の在り方に関する研究

- 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの作成と活用をとおして -

研究協力校  
花巻市立矢沢中学校

平成 21 年 1 月 7 日  
岩手県立総合教育センター  
長期研修生（2年）  
川 村 文 孝

## 目 次

研究目的.....	1
研究仮説.....	1
研究の年次計画.....	1
本年度の研究内容と方法.....	1
1 目標.....	1
2 内容と方法.....	2
3 研究協力校.....	2
研究結果の分析と考察.....	2
1 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本構 想.....	2
(1) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランを作成する意義.....	2
(2) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランについて.....	2
(3) 中学校社会科における評価プランについて.....	3
(4) 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本 構想図.....	5
2 第1年次の「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づく授業実践計画 と検証計画.....	6
3 第1年次の「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づく授業実践の結 果及び分析と考察.....	6
(1) 授業実践の概要.....	6
(2) 社会的な見方や考え方の育成状況.....	10
(3) 第2年次の授業実践の方向性.....	12
4 第2年次の「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づく授業実践計画 と検証計画.....	13
5 第2年次の「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づく授業実践の結 果及び分析と考察.....	13
(1) 授業実践の概要.....	13
(2) 社会的な見方や考え方の育成状況.....	17
6 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する研究の まとめ.....	21
研究のまとめ.....	22
1 研究の成果.....	22
2 今後の課題.....	22

〔おわりに〕

【引用文献】

【引用Webページ】

【参考文献】

## 研究目的

中学校社会科では、社会的事象に対する関心を高め、資料を適切に収集、選択、処理、活用し、それらの資料に基づいて多面的・多角的に考察、判断する態度を生徒に身に付けさせることが求められている。このような社会科のねらいである社会的な見方や考え方は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の四観点から育成することが大切である。

しかし、「知識・理解」や「技能・表現」など量的側面が強い学力に比較して、「関心・意欲・態度」や「思考・判断」など質的側面が強い学力は、実現状況を正しく見取り、育成することが難しいといわれている。その要因として、「関心・意欲・態度」にかかわり、どのような学習場面をとらえ、何をもって実現状況を評価すればよいのかが曖昧になっていることが挙げられる。また「思考・判断」にかかわり、生徒に身に付けさせたい力を、分野をとおして系統的、継続的に育ていく視点が明らかになっていないことが挙げられる。その結果、社会的な見方や考え方を四観点から育成することが困難になっている。

このような状況を改善するためには、社会的な見方や考え方との関連から「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取るための視点を明らかにし、学習活動及び評価問題を位置付けた評価プランを作成し、活用する必要がある。

そこで、本研究は、評価プランの作成と活用をとおして、「関心・意欲・態度」「思考・判断」の指導と評価の在り方について明らかにし、社会的な見方や考え方の育成を目指した中学校社会科の学習指導の改善に役立てようとするものである。

## 研究仮説

中学校社会科において、社会的な見方や考え方の育成との関連から「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取るための視点を明らかにし、指導と評価の計画を立て、実現状況に応じた指導を行う評価プランを活用すれば、社会的な見方や考え方を育成することができるであろう。

## 研究の年次計画

この研究は、平成19年度から20年度にわたる2年次研究である。

### 第1年次（平成19年度）

中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価についての基本的な考え方の検討及び基本構想を立案し、「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの作成、評価プランに基づく授業実践をとおしてその改善点を明らかにする。

### 第2年次（平成20年度）

第1年次に明らかにした「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの改善点を基に授業実践を行い、中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方についてまとめる。

## 本年度の研究内容と方法

### 1 目標

第1年次に明らかにした「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの改善点に基づいて、授業実践計画と検証計画を立案する。そして計画に基づいた授業実践を行い、その分析と考察をとおして中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方

に関する研究のまとめを行う。

## 2 内容与方法

- (1) 第1年次に明らかにした「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの改善点に基づいた授業実践計画と検証計画の立案（文献法）
- (2) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づく授業実践（授業実践）
- (3) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づく授業実践結果の分析と考察（質問紙法）
- (4) 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する研究のまとめ

## 3 研究協力校

花巻市立矢沢中学校

### 研究結果の分析と考察

- 1 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本構想  
中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本構想については、本研究第1年次（平成19年度）で示した。その概要を以下の(1)～(4)に示す。

- (1) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランを作成する意義

「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の四観点は、平成3年の指導要録改訂で採用されたものであるが、それ以前の評価の観点に比べると大きな違いが見られる。それ以前の評価の観点は、各教科の目標や内容から定められ、各教科の評価の観点は内容の違いを反映して互いに独立したものであった。しかし、平成3年に改訂された指導要録の「改訂の概要」において、「新学習指導要領に示す各教科の目標や内容を踏まえ、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの育成に重点を置くことが明確になるように配慮」することとされ、観点が改められた。このため、各教科は目標や内容を異にしているものの、すべては自ら学ぶ意欲や思考力、判断力の育成ために寄与するものと位置付けられ、これら四観点は、各教科に共通に採用されることになったのである。

しかし、国立教育政策研究所の「学習評価の工夫改善に関する調査研究」（2004）にも見られるように、「知識・理解」や「技能・表現」など量的側面が強い学力に比較して、「関心・意欲・態度」や「思考・判断」など質的側面が強い学力は、実現状況を正しく見取り、育成することが難しいと言われている。

以上のことから、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力を四観点から育成するためには、「関心・意欲・態度」と「思考・判断」を、何をもってどのように評価し指導に生かすのかを明らかにした評価プランを作成する必要があると考える。

- (2) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランについて

ア 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの定義

「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランとは、「関心・意欲・態度」「思考・判断」の指導と評価に関する計画を立て、そのための手だてを準備し、指導と評価を行い、見取った実現状況に応じた指導及び計画の見直しを行う一連の流れである。

イ 「関心・意欲・態度」の目標の明確化について

「関心・意欲・態度」の変容の見取りについて、ブルーム(1971)が明らかにした「教育目標

の領域区分」から示唆を得た。長瀬(2003)は、ブルームが領域として区分した「情意的領域」と「関心・意欲・態度」のかかわりを【表1】のように示した。

【表1】長瀬によるブルームの情意的領域と関心・意欲・態度とのかかわり

ブルームによる情意的領域におけるカテゴリー		関心	意欲	態度
受容 ある現象や刺激についての一般的な注意	- 1 感知 - 2 積極的受容 - 3 注意の集中・選択			
反応 ある現象や刺激について注意を向けたことについての何らかの反応	- 1 反応の黙認 - 2 自発的反応 - 3 反応の満足			
価値付け 事物、現象、行動などへの評価および価値付け	- 1 価値の承認 - 2 価値の選択 - 3 価値への傾倒			
価値の体制化 次元の高い価値の抽象化および価値体系の構造化	- 1 価値の概念化 - 2 価値体系の体制化			
価値による人格化 個人の行動を統制する内部的一貫性をもった価値の体制化	- 1 一般化された構え - 2 人格化			

【表1】は、「関心・意欲・態度」を「受容」から「価値の体制化」に向けて育成すればよいこと、各カテゴリーの内容と教科の指導内容とを照らし合わせて、単元における「関心・意欲・態度」の目標や見取りの視点を明確にすればよいことを示している。

#### ウ 「思考・判断」の目標の明確化について

国立教育政策研究所の「ポートフォリオ評価を活用した指導の改善、自己学習力の向上及び外部への説明責任に向けた評価の工夫」(2005)によれば、「思考・判断」は「自己教育力」の「高次知的機能面」、つまり「調べたり探したりするのに必要な学習能力」とであるとされる。

この「自己教育力」という概念は、中央教育審議会教育内容等小委員会「審議経過報告」(昭和58年11月)において提案されたものである。「審議経過報告」によれば、自己教育力は、学習への意欲、学習の仕方の習得(問題解決的な学習方法の重視)、生涯にわたって学習し続ける意志、という三つの要素によって説明されている。

すなわち、「思考・判断」の目標や見取りの視点は、「課題をつかむ」「課題を追究する」「課題を解決する」といった問題解決的な学習過程に着目し、その各過程でどのような「調べたり探したりするのに必要な学習能力」が求められるのか、教科の指導内容に照らし合わせて明確にする必要があると言える。

### (3) 中学校社会科における評価プランについて

#### ア 中学校社会科における社会的な見方や考え方に関する基本的な考え方

中学校学習指導要領社会の目標における「広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し」の部分には、社会科の学習が目指している見方や考え方を示している。「社会に対する関心を高め」とは、生徒自ら資料から社会的事象を見出し、それを基に課題を設定し追究することである。「多面的・多角的に考察し」とは、社会的事象のもつ意味や背景、因果関係などを、様々な角度から他の社会的事象と比較、関連、統合させながら追究し、社会的事象の価値をつかむことである。

すなわち、社会的な見方や考え方に必要な力は、資料から事実をとらえる力、事実と事実の関係をとらえる力、事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力であると言える。

#### イ 中学校社会科における「関心・意欲・態度」の目標の明確化及び評価について

【表1】の情意的領域と「関心・意欲・態度」のかかわりの考え方に沿って、社会科における

「関心・意欲・態度」の目標を明確化する。「関心・意欲・態度」が認知面と結び付き、社会的な見方や考え方の育成を支えていることを考慮し、情意的領域におけるカテゴリと社会的な見方や考え方の育成の過程を対応させ、【表2】のように整理する。

【表2】情意的領域のカテゴリと社会的な見方や考え方の育成過程の対応

情意的領域のカテゴリ	社会的な見方や考え方の育成の過程
受容	学習をとおして今まで無意識であった社会的事象に気付きながら知識が広がっていく段階
反応	社会的事象に対する気付きが深まり、社会的事象間の結び付きや価値などを見出す段階
価値付け	
価値の体制化	知識や価値に対する考え方が身に付き、情意面の高まりが表面化し態度化につながっていく段階

以上の情意的領域におけるカテゴリと社会的な見方や考え方の育成の過程のかかわりから、本研究では、「関心・意欲・態度」の変容を見取る視点を次の三点ととらえる。

単元の指導内容に関する気付きにかかわること 社会的事象間の結び付きや構造、価値に関する気付きにかかわること 具体的な関心や新たな疑問、生活との結び付きに関する気付きにかかわること
---

そこで本研究では、これらの変容を見取る評価方法として、授業の終末や単元末において学習を振り返る記述をさせ、記述内容に表れた「関心・意欲・態度」の変容を見取る方法を用いる。単元をとおして「どんなことに関心をもったのか」「どんな新たな疑問が生じたのか」を見取り続けながら、単元末に「関心・意欲・態度」の変容を先に述べた三つの視点から見取ることができるシートを作成する。このシートを「振り返りシート」と呼ぶこととする。

ウ 中学校社会科における「思考・判断」の目標の明確化及び評価について

中学校社会科における問題解決的な学習過程の各過程で、どのような「調べたり探したりするのに必要な学習能力」が求められるのかという観点から見取りの視点を明らかにする必要がある。

鈴木(2005)は、「調べたり探したりするのに必要な学習能力」を「思考技能」と呼び、問題解決的な学習過程において、因果、関連、比較、分類、類推、条件、想起などが必要であるとしている。

これらの思考技能の中で、最も中学校段階で身に付けるべきものは何かを示唆するものとして中学校指導要録の改善通知(2001)がある。この通知には「社会的な思考・判断」の趣旨として、社会的事象の違いや共通点を比較し、意義や特色を明らかにすること、社会的事象同士の関連をとらえ、多面的・多角的に考察、判断することの重要性が示されている。

このことから、中学校社会科において、思考技能の中で最も基本的なものを「比較・分類」と「因果・関連」であるととらえた。

そこで本研究においては、「思考・判断」の評価は、「比較・分類」と「因果・関連」という思考技能を使いこなす力が身に付いているかどうかを見取ることとする。

評価方法としては、「比較・分類」や「因果・関連」を視覚化して示す関係図などを取り入れた学習プリントの記述内容から見取する方法と、評価問題によって見取する方法を用いる。

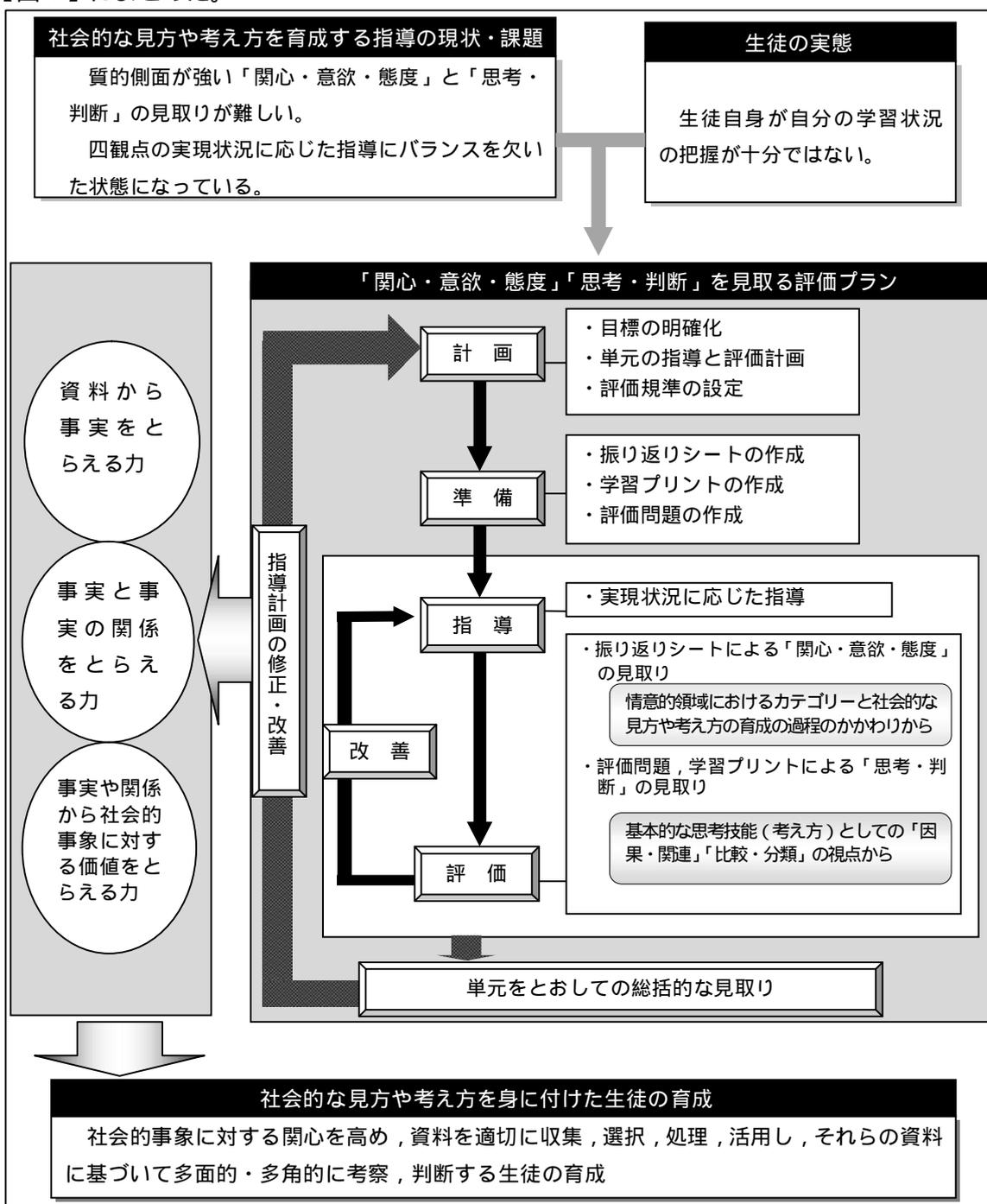
エ 実現状況に応じた指導について

「関心・意欲・態度」の実現状況に応じた指導については、「関心・意欲・態度」が「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の高まりと密接にかかわることから、他の三観点の見取りと指導を大切にすることが必要である。つまり社会的な見方や考え方の育成過程のどの段階でつまづいているのかを見取り、基本となる知識や課題を追究する学び方を確認する指導が必要である。また、学習プリントの記入内容や振り返りシートの記入内容に対して、学習目標に迫る見方や考え方を評価しコメ

ントする。コメントは常に単元構成を考え、次の学習につながるようにする。このようなコメントを繰り返すことによって単元の目標に沿った「関心・意欲・態度」を育成する。

「思考・判断」の実現状況に応じた指導については、学習課題をとらえているか、学び方が身に付いているか、思考の基となる知識が身に付いているか、「比較・分類」や「因果・関連」の視点をもっているか、というような段階を踏んだ視点で見取りと指導を行い、「比較・分類」や「因果・関連」の視点に気付かせる。また、意見交流において他者の考え方を聞くことによって自分の考えを補い、考えの根拠の質を深めさせる指導を行う。

- (4) 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本構想図  
 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本構想を【図1】にまとめた。



【図1】中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本構想図

2 第1年次の「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づく授業実践計画と検証計画

授業実践計画は【表3】に示すとおりである。

また,【表4】に示した検証計画を基に,社会的な見方や考え方を育成を図るための「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの有効性を検証する。

【表3】第1年次の授業実践計画

	第1年次の授業実践
分野	歴史的分野
学年	第2学年
単元名	世界恐慌と日本の中国侵略
期間	平成20年1月30日～2月14日
時数	7時間

【表4】第1年次の検証計画

検証項目	検証内容	対象	検証方法	処理・解釈の方法
社会科の見方や考え方の育成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料から事実をとらえる力</li> <li>事実と事実の関係をとらえる力</li> <li>事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力</li> </ul>	生徒	同構造異単元の事前・事後テストを実施	結果について,t検定により分析・考察を行う

3 第1年次の「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づく授業実践の結果及び分析と考察

第1年次の授業実践では,「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランが社会的な見方や考え方の育成に有効であるのかを検証した。その結果,社会的な見方や考え方に必要な力である「資料から事実をとらえる力」と「事実と事実の関係をとらえる力」を育成する手だての有効性を確認した。しかし,「事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力」を育成する手だての有効性は確認できなかった。以下,授業実践の概要及び分析と考察を述べる。

(1) 授業実践の概要

本授業実践における単元のねらいは,欧米やアジアとの関係を示す資料の読み取りをとおして我が国における昭和初期の軍部の台頭の経過を理解させることである。授業実践は,花巻市立矢沢中学校第2学年2学級(39人,40人,計79人)を対象として行った。

指導と評価の流れとして,指導と評価計画の立案,「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る手だての準備,単元の指導過程における手だてについて,順に評価プランの概要を述べる。

ア 指導と評価計画の立案

次頁【資料1】は,本実践の指導と評価計画表である。「関心・意欲・態度」の見取りの三つの視点や思考を追究するための方法として「比較・分類」「関連・因果」をおさえ,「単元の評価規準」と「学習活動における具体的評価規準」を設定した。また,実現状況に応じた指導として,「関心・意欲・態度」については,単元をとおして関心や意欲がつながるコメントを「振り返りシート」に記入する計画を立てた。「思考・判断」については,知識を整理させ,「比較・分類」や「因果・関連」の視点の与える計画を立てた。

イ 手だての準備

手だての準備として,「関心・意欲・態度」の総括的評価と形成的評価のための振り返りシート,「思考・判断」の形成的評価のための学習プリント,「思考・判断」の総括的評価のための評価問題を準備した。

【資料1】 指導と評価計画表

単元の指導目標	単元の評価規準				知識・理解			
	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解				
(1) 昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに対する関心を高めさせ、意欲的に追究させる。 (2) 昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きについて多面的・多角的に考察させ、公正に判断させる。 (3) 昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに関する資料を収集させ、有用な情報を選択・活用させるとともに、課題を追究し考察した過程や結果をまとめさせる。 (4) 昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解させ、その知識を身に付けさせる。	関心・意欲・態度 ・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに対する関心を高め、意欲的に追究している。	思考・判断 ・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きについて多面的・多角的に考察し公正に判断している。	技能・表現 ・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに関する資料を収集し、有用な情報を選択・活用させるとともに、課題を追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	知識・理解 ・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解し、その知識を身に付けている。				
学習内容	時	学習目標・学習内容	学習活動における具体的評価規準			実現状況に応じた指導		
			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	関心・意欲・態度	思考・判断
1 世界恐慌とブロック経済	1	目標 ・世界恐慌がおこった経緯をとらえ、その対策としてのニューディール政策やブロック経済、ドイツにおけるファシズムの台頭について理解する。 ・第一次世界大戦後の世界情勢を確認する。 ・資料から世界恐慌のあらましに関して分かることを発表する。 ・当時の列強国の世界恐慌への対応策を調べる。 ・恐慌以前と以後の国際情勢を比較し、恐慌の歴史の意味を考え、発表する。 ・本時の振り返りを行う。	関心・意欲・態度 ・世界恐慌がおこった経緯やそれに対する欧米諸国の対応について関心や疑問をもったことをシートに記入している。(振り返りシート)	【比較・分類】 ・世界恐慌前後の国際情勢を比較し、恐慌の歴史の意味について考察し学習プリントに記入している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	技能・表現 ・「満蒙問題」に対する石原と石橋のそれぞれの考えを資料から読み取り学習プリントに記入している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	知識・理解 ・世界恐慌がおこった経緯をとらえ、それに対する欧米諸国の対応について理解し、身に付けた知識を問うテストに解答している。(確認テスト)	関心・意欲・態度 ・前単元までの歴史の流れを確認し、国際状況の流れに着目させるために板書で知識を整理させる。また、他の時代の変化を取り上げ、具体例をあげてまとめ方を指導する。	思考・判断
		学習活動						
2 欧米の情勢と日本	1	目標 ・世界恐慌の影響による日本経済の混乱や農業不況による国民生活の困窮の様子をとらえ、その対応策について考える。 ・世界恐慌の発生と各国の対応策について確認する。 ・恐慌の日本への影響をつかむ。 ・「満蒙問題」について、石原莞爾と石橋基山の考え方を確認する。 ・当時の状況を考えて、自分ならばどちらの意見を採用するか判断する。 ・他人の発表を聞いて、最後にもう一度自分の考えを書く。 ・本時の振り返りを行う。	関心・意欲・態度 ・世界恐慌がおこった経緯やそれに対する欧米諸国の対応について関心や疑問をもったことをシートに記入している。(振り返りシート)	【因果・関連】 ・世界恐慌の影響による国民生活の困窮とその対応策について多角的に考察し学習プリントに記入している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	技能・表現 ・「満蒙問題」に対する石原と石橋のそれぞれの考えを資料から読み取り学習プリントに記入している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	知識・理解 ・世界恐慌がおこった経緯をとらえ、それに対する欧米諸国の対応について理解し、身に付けた知識を問うテストに解答している。(確認テスト)	関心・意欲・態度 ・資料の具体的な主張の違いの箇所に下線を引かせ、両者の考えを簡単に整理し、日本の現状を具体的に指摘したり、前時の学習内容を確認するなどして、判断に根拠を持たせる。また、グループの中で出された意見を参考にするように指示する。	思考・判断
		学習活動						
3 日本の中国侵略	1	目標 ・満州事変後、二二六事件などをきっかけに軍部が次第に発言力を強めていったことを理解する。 ・満蒙問題について確認する。 ・リットン調査団に関する資料から満州事変のあらましをつかむ。 ・新聞記事資料などから五一五事件と二二六事件のあらましを調べる。 ・満州事変、五一五事件、二二六事件が政治や社会に及ぼした影響について関連を考え、発表する。 ・本時の振り返りを行う。	関心・意欲・態度 ・満州事変から国際連盟脱退までの経緯や国内政治の中で軍部の発言力が増大していったことについて関心や疑問をもったことをシートに記入している。(振り返りシート)	【因果・関連】 ・満州事変や五一五事件、二二六事件の経緯をとらえ、事件の背景やその後の政治に及ぼした影響を考察し学習プリントに記入している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	技能・表現 ・「満蒙問題」に対する石原と石橋のそれぞれの考えを資料から読み取り学習プリントに記入している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	知識・理解 ・世界恐慌から満州事変に至る流れや二二六事件等の軍部の台頭に關する記述に対して価値付けをする。またその後の日本と中国の關係への関心につながるコメントを記入する。	関心・意欲・態度 ・具体的な出来事の影響面に着目させ、満州事変から国際連盟脱退に至る国内情勢の共通性に気付かせ、三つの出来事に関連するキーワードを板書から見つけさせ、そのつながりを考えさせる。また、グループの中で出された意見を参考にするように指示する。	思考・判断
		学習活動						
4 日中全面戦争	1	目標 ・満州をめぐると対立から日中戦争が始まったことや中国の抵抗によって戦争が長期化していったことを理解する。 ・世界恐慌から満州事変までの流れを確認する。 ・当時の官製スローガンや看板などから統制経済下の国民生活をつかむ。 ・日中戦争開戦までの経緯について調べる。 ・地区などから日中戦争の長期化のようすを読み取り、発表する。 ・斎藤隆夫の演説から、政府、議会、軍部の問題点を考える。 ・本時の振り返りを行う。	関心・意欲・態度 ・日中戦争開戦までの経緯や戦争の長期化のあらましについて関心や疑問をもったことをシートに記入している。(振り返りシート)	技能・表現 ・地図を活用して日本軍の進路や占領年などから日中戦争の広がりや長期化のようすを読み取り学習プリントに記入している。(学習プリントの取組状況)	知識・理解 ・日中戦争開戦の経緯をとらえ、国民生活が次第に統制されていった状況を理解し、身に付けた知識を問うテストに解答している。(確認テスト)	関心・意欲・態度 ・日中戦争開戦の経緯やその長期化による国民生活への影響に関する記述に対する価値付けをする。またその後の日中戦争の行方への関心につなげるコメントを記入する。	思考・判断	
		学習活動						
5 単元のまとめ	2	目標 ・単元の学習を振り返り、自己の変容や課題、学習内容に対する新たな疑問・発見を理解する。 ・評価問題(単元テスト)に取り組む。 ・振り返りシートをまとめる。 ・評価問題の実現状況に応じたコース別学習を行う。	関心・意欲・態度 ・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きについて、社会的現象や因果関係をとらえ、新たな疑問や具体的な関心をもったことをシートに記入している。(振り返りシート)	思考・判断 ・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きについて多面的・多角的に考察させるテストの問いに対し、授業での成果を基に解答している。(評価問題)	技能・表現 ・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに関する資料を収集し、有用な情報を選択・活用させるテストの問いに対し、授業での成果を基に解答している。(評価問題)	知識・理解 ・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解し、身に付けた知識を問うテストに解答している。(評価問題)	関心・意欲・態度 ・補充学習において、昭和初期から第二次世界大戦直前までの基本的な知識や歴史の流れを図式化して構造的に確認させる。 ・発展学習においては、生徒自身が視点を決めて単元の歴史の流れを図式化する作業を行わせる。	思考・判断
		学習活動						

ウ 単元の指導過程における手だての概要

前頁【資料1】の指導と評価計画を基に授業実践を行った。一単位時間ごとに問題解決的な学習を行い、単元末で評価問題の実施、評価問題の実現状況を受けてのまとめの学習を行った。【資料2】、次頁【資料3】は、一単位時間の中で「関心・意欲・態度」と「思考・判断」を見取った授業の概要である。

【資料2】授業の概要1

1 本時の目標 世界恐慌の影響による日本経済の混乱や農業不況による国民生活の困窮の様子をとらえ、その対応策について考える。							
2 展開							
段階	学習活動	評価規準と 実現状況に応じた指導計画	授業場面での指導と評価の実際				
導入	1 前時の学習内容を確認する 2 本時の学習課題を設定する  不況の中、日本はどのような道を進むべきなのだろうか		<p>【生徒の学習プリント記入例】</p> <p>「満州をどうすべきか。」 あなたが日本の首相なら、どちらの意見をとりいれますか？</p> <table border="1"> <tr> <td>いしはら莞爾 石原莞爾</td> <td>いしはら湛山 石橋湛山</td> </tr> <tr> <td>・ 満州はソ連から日本や朝鮮半島を守るために重要な土地であり、直接支配しないとアジアは安定しない。 ・ 現在の日本の不景気は満州を支配することによって解決する。</td> <td>・ 満州を支配するとアメリカと対立する。日本が満州、台湾、朝鮮、樺太などを捨ててしまえば戦争はおこらない。 ・ 満州などから得られる利益よりも欧米との貿易の方が利益が大きい。欧米と仲良しの方がよい。</td> </tr> </table> <p>2 自分の意見をまとめよう。 100% 莞爾 ← 気持ちほどの辺? → 100% 湛山</p> <p>満州への進出は必要かもしれないが、戦争が長引いて軍事費の増加などにつながれば、かえって恐慌から抜け出すことが難しくなると思ったから。</p> <p>3 最終意見をまとめよう。 100% 莞爾 ← 気持ちほどの辺? → 100% 湛山</p> <p>多くの犠牲を払って獲得した朝鮮半島や台湾を簡単に手放すのは簡単なことではないという意見は説得力があると思った。しかし欧米の動きを考えると獲れるか分からない満州のために軍事費を費やし、孤立するのはいい政策とはいえない。</p> <p>【実現状況に応じた指導】 歴史的なテーマにかかわる判断の根拠をまとめることをとおして、事象間の「因果・関連」の気付けさせ、当時の日本の状況を考えさせる学習プリントに取り組みさせた。視点をもてずにいる生徒に対しては、資料から読み取った「満州を維持することのメリット・デメリット」と当時の日本の状況をあわせて判断するように指導した。また、意見交流によって得られた視点も参考にして、最終的な自分の考えをまとめるように指導した。</p>	いしはら莞爾 石原莞爾	いしはら湛山 石橋湛山	・ 満州はソ連から日本や朝鮮半島を守るために重要な土地であり、直接支配しないとアジアは安定しない。 ・ 現在の日本の不景気は満州を支配することによって解決する。	・ 満州を支配するとアメリカと対立する。日本が満州、台湾、朝鮮、樺太などを捨ててしまえば戦争はおこらない。 ・ 満州などから得られる利益よりも欧米との貿易の方が利益が大きい。欧米と仲良しの方がよい。
いしはら莞爾 石原莞爾	いしはら湛山 石橋湛山						
・ 満州はソ連から日本や朝鮮半島を守るために重要な土地であり、直接支配しないとアジアは安定しない。 ・ 現在の日本の不景気は満州を支配することによって解決する。	・ 満州を支配するとアメリカと対立する。日本が満州、台湾、朝鮮、樺太などを捨ててしまえば戦争はおこらない。 ・ 満州などから得られる利益よりも欧米との貿易の方が利益が大きい。欧米と仲良しの方がよい。						
展開	3 学習課題に対する予想を考え、発表する 4 学習の視点を確認する 5 学習課題について調べ、発表する  (1) 「満蒙問題」に対する石橋湛山と石原莞爾の考え方を資料から読み取る (2) 石橋湛山と石原莞爾の考え方のどちらに近いか理由を添えてまとめる (3) 他の生徒と意見を交流する (4) 最終的な自分の考えをまとめる	<p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界恐慌の影響による国民生活の困窮とその対応策について多角的に考察し、判断して学習プリントに記入している</li> <li>資料の具体的な主張の違いの箇所に下線を引かせ、両者の考えを簡単に整理し、日本の現状を具体的に指摘したり、前時の学習内容を確認するなどして、判断に根拠を持たせる。また、意見交流の中で出された意見を参考にするように指示する</li> </ul>					
終末	6 本時の振り返りを行う。 ・ 知識の確認プリントに取り組む ・ 本時の学習内容について関心をもったことや新たに疑問をもったことをまとめる	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界恐慌の影響による日本経済の混乱や農業不況による国民生活の困窮の様子、その対応策について関心や疑問をもったことをシートに記入している</li> <li>世界恐慌の日本への影響や日本が生き抜くための方策に関する記述に対して価値付けをする。またその後の世界の様子や世界恐慌と日本の関係への関心につなげるコメントを記入する</li> <li>社会的な見方や考え方の育成過程のつまずきの状況から次時の指導の重点化や改善につなげる</li> </ul>	<p>【振り返りシートの記述内容】</p> <p>今日の学習の「なるほど!」「そうか!」</p> <p>満州をめぐる考え方 (41人) 満州の国防上の意味 (25人) 日本の経済不況 (18人)</p> <p>新たな疑問やもっと調べてみたいこと</p> <p>満州のその後 (63人) 国民の満州に対する考え方 (10人) 北支にも進出していくのか (7人) ソ連の対日戦略 (2人) 空欄 (2人)</p> <p>【実現状況に応じた指導】 空欄の見られる生徒の振り返りシートには、その後の日本の対満洲政策に関心を向けるコメント記入した。 意見を発表させ、どんな事象を重視しているのかそれぞれの考えの独自性に気付かせることによって、「思考・判断」のねらいに沿った感想が多くみられた。 次時は、多くの生徒の感想にみられる満洲事変の顛末を導入部分で取り上げ、関心の継続を図る。</p>				

【資料3】授業の概要2

1 本時の目標 満州事変の後、二・二六事件等の事件をきっかけに、軍部が次第に政治に対する発言力を強めていったことを理解する。

2 展開

段階	学習活動	評価規準と実現状況に応じた指導計画	授業場面の指導と評価の実際
導入	1 前時の学習内容を確認し、その後日本はどちらの道を行くのか資料から確認する 2 本時の学習課題を設定する 満州事変以後、日本の国内政治はどのようになっていったのだろう		【生徒の学習プリント記入例】 
展開	3 学習課題に対する予想を考え、発表する 4 学習の視点を確認する 5 学習課題について調べ、発表する (1) 満州事変のあらましについて調べる (2) 五・一五事件と二・二六事件のあらましについて調べる (3) 満州事変、五・一五事件、二・二六事件が政治に及ぼした影響について考え、関係図にまとめる (4) 自分の考えをグループ内で発表し、グループごとに事件の影響を考えまとめる	【思考・判断】 ・満州事変や五・一五事件や二・二六事件の経緯をとらえ、事件の背景やその後の政治に及ぼした影響について学習プリントに記入している ・他の時代の歴史的事象を取り上げ、具体例を示して共通性を読み取り方、まとめ方を指導する ・具体的な出来事の影響面に着目させ、満州事変から国際連盟脱退に至る国内情勢の共通性に気付かせ、三つの出来事に関連するキーワードを板書から見つけさせ、そのつながりを考えさせる。また、グループの中で出された意見を参考にするように指示する	【実現状況に応じた指導】 事象間の「因果・関連」のに気付かせ、そこから時代の特徴を概念として考えさせる学習プリントに取り組ませた。 思考の基となる知識の量が多く必要となる事象なので補充プリントで知識をしっかりと整理させた上で、視点を持たずにいる生徒に対しては、三つの出来後にかかわっている「軍部」と「政治家」の力関係の変化に着目するように指導した。
終末	6 本時の振り返りを行う ・知識の確認プリントに取組む ・本時の学習内容について関心をもったことや新たに疑問をもったことをまとめる	【関心・意欲・態度】 ・満州事変から国際連盟脱退までの経緯や国内政治の中で軍部の発言力が増大していったことについて関心や疑問をもったことをシートに記入している ・世界恐慌から満州事変に至る流れや二・二六事件等の軍部の台頭に関する記述に対して価値付けをする。またその後の日本と中国の関係への関心につながるコメントを記入する ・社会的な見方や考え方の育成過程のつまずきの状況から次時の指導の重点化や改善につなげる	【振り返りシートへの記述内容】 今日学習の「なるほど!」「そうか!」 軍部の発言力の増大(42人) 不況から満州事変までのつながり(16人) 戦前のテロの多さ(12人) 政治の不安定さ(12人) 政党政治の腐敗とテロ(6人) 事実誤認(4人) 新たな疑問やもっと調べてみたいこと その後の軍部の動き(33人) その後の政治の在り方(19人) その後の中国との関係(6人) 国民の事件に対する考え方(5人) 孤立化と太平洋戦争とのつながり(3人) 他国の日本の見方(3人) もし溥山の考えをとっていたら(3人) 天皇の動き(1人) 【実現状況に応じた指導】 事実誤認が感想の中にみられる生徒に対しては、政治の腐敗とテロの結び付きへの発見については肯定的なコメントを記入しながらも、テロがあたかもすべて軍部の行動としている部分は訂正のコメントを記入した。

(2) 社会的な見方や考え方の育成状況

社会的な見方や考え方の育成状況を見取るために、矢沢中学校第2学年の生徒に対して、構造を同じにした授業実践の単元における単元テストと前単元の単元テストによる事前・事後テストを行った。【表5】は、社会的な見方や考え方に必要な力ごとの得点結果である。この結果を基に分析と考察を述べる（有効回答は69人であった）。

【表5】事前・事後テストの得点結果

n=69

必要な力	項目	事前平均	事後平均	t 値
資料から事実をとらえる力(満点8)		5.79	6.50	3.94*
事実と事実の関係をとらえる力(満点5)		2.01	3.00	6.08*
事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力(満点3)		1.72	1.98	1.51, ns.

ア 資料から事実をとらえる力の育成状況

\* p<.05

資料から事実をとらえる力にかかわる事前と事後のテストの得点について、差異を確かめるためにt検定を行った。その結果、事後テストの得点は、事前テストの得点より有意に高い(t = 3.94, df = 68, p < .01)ことが示唆された。

すなわち、資料から事実をとらえる力は、授業実践の事後において事前より育成されたと考えられる。

これは、「思考・判断」を見取る学習プリントを使って、資料から事実を取り出してまとめる作業をさせたり、実現状況に応じた指導において、資料の見方や思考の基となる知識が身に付いているのかを確認したりする指導を行ったためと考えられる。

また、「関心・意欲・態度」を見取る振り返りシートの記述において事実誤認が見られた生徒に対して訂正のコメントを記入したり、次時の授業で資料からの事実の読み取りの個別指導を重点的に行ったりしたためと考えられる。

イ 事実と事実の関係をとらえる力の育成状況

事実と事実の関係をとらえる力にかかわる事前と事後のテストの得点について、差異を確かめるためにt検定を行った。その結果、事後テストの得点は、事前テストの得点より有意に高い(t = 6.08, df = 68, p < .01)ことが示唆された。

すなわち、事実と事実の関係をとらえる力は、授業実践の事後において事前より育成されたと考えられる。

これは、学習プリントに「比較・分類」「因果・関連」を視覚化して示す関係図を取り入れることによって実現状況を見取りやすくし、つまずきに応じて「比較・分類」「因果・関連」の視点を与えることができたためと考えられる。

また、次頁【資料4】は「関心・意欲・態度」の目標に到達した生徒の記述内容である。振り返りシートにおける「新たな疑問や調べてみたいこと」には、「次はどうなるのだろう」という次時への関心につながる記述が見られる。「今日の学習の『なるほど!』『そうか!』」には、事実と事実の関係をとらえた記述も見られる。これは、歴史の流れをとらえさせるように単元構成した指導計画を立てたり、学習内容のつながりを意識させるコメントをしたりしたためと考えられる。このような指導からも、事実と事実の関係をとらえる力の育成が図られたと考えられる。

【資料4】「関心・意欲・態度」の目標に到達した生徒の振り返りシートの記述内容

の単記元述前	日本と中国が戦争した時代について知っていること、思いつくことを書いてみよう。 満州事変から戦争が始まった。 日本が勝った？		指導者のコメント
	時	今日の学習の「なるほど!」「そうか!」 世界恐慌が流れを変えた。	新たな疑問・調べてみたいこと 無記入
		その通り!世界恐慌は第一次大戦後の流れを大きく変えたね。どう変えたのが簡単にまとめておくとさらにGOOD!	世界恐慌は世界の流れを変えたけど、日本も世界恐慌の影響を受けたのか?日本はどんな様子だったんだろう?
		満州を取るか取らないかは当時の日本にとっては経済や生活を大きく動かす重要なことだったんだと思った。 日本にとって満州は特別な意味をもつ土地だったんだね。当時の状況をよく理解した上で考えることは大切ですね。	どちらの考え方を日本はとったのか知りたい。 そうだ!そこが戦前の日本の重要なポイントになります。なぜそういえるのか、次の時間にしっかり学習しよう!
		関東軍の勝手な行動を政府があとから認めてしまったことが、その後のテロ事件など軍部の台頭につながったと思う。その意味で満州事変は大きな分かれ道だともった。 満州事変が戦前の日本の重要なポイントである意味をきちんととらえているね。ここまでの流れもよくつかんでいるよ。	関東軍の考え方だと日本を守るためにまた中国とぶつかるのではないかと思った。このまま国民党はだまっているのか。 するどい見方です!日本は今までの考え方だと満州を防衛するためにどこを支配下に入れようとするだろうね。
	長期化の理由に戦争目的のあいまいさがあったのには驚いた。政府でも目的がはっきりしないということがあるのかと思った。 驚いたかもしれないけど、ひょっとしたらこれは現代にもいえることでは?そういう見方も歴史から学ぶことができるよ。	日本はこの戦争をどうやって切り抜けたのか。太平洋戦争とはかかわりがあるのか。国民の生活はどうなっていくのか。 おお素晴らしい!疑問が深まっていますね。太平洋戦争や国民生活は次の単元で学習します。特に太平洋戦争とのつながりをよく考えて学習するとしっかり流れが見えてくるよ!	
単元末の記述	日本と中国が戦争した時代について知っていること、思いつくことを書いてみよう。 第一次大戦後の国際協調の流れが世界恐慌によって新たな対立を生むなど大きく変化した。その影響が日本にもおよび、満州に進出することで不況と国防上の問題を解決しようとした。国内ではテロ事件などをとおして軍部の発言力が強くなって、戦争の目的がはっきりしないまま軍部の強い要望などによって日中戦争が長続いた。 この振り返りシート見直してみて、思ったことや感じたこと、新たな疑問や発見などについてまとめよう。 第一次大戦後の国際協調を大きく変えた世界恐慌は大きな意味をもっていると思った。不況のしくみについてさらに知りたいと思ったし、この日中戦争がどのように進んでいき、太平洋戦争とはつながりがあるのか知りたいと思った。		

ウ 事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力の育成状況

事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力にかかわる事前と事後のテストの得点について、差異を確かめるためにt検定を行った。その結果、事後テストの得点と事前テストの得点の間に有意差が認められなかった ( $t = 1.514, df = 68, p = .13$ )。

事前テストの平均点は1.72点、事後テストの平均点は1.98点であり、平均点の伸びは見られたものの研究担当者が求めていた数値には至らなかった。

そこで授業記録を振り返り、評価プランの課題として次の二点を見出した。

一点目は、単元全体にかかわる思考の基となる知識の診断的評価が、指導と評価計画に位置付けておらず、価値判断をするための事実認識を行う時間の確保も充分ではないことである。

二点目は、意見を交流し合ったあとの多面的・多角的な考え方の育成状況を見取る学習プリントになっておらず、実現状況に応じた指導ができていないことである。

価値判断について、本授業実践においては「満蒙問題」にかかわる石橋湛山と石原莞爾の考え方を価値判断させる学習を行った。価値判断させる場面は二段階に分けた。事実と事実の関係をとらえる学習をしたあとに価値判断をさせ、その後意見交流させて、最終的な考えをまとめさせた。

【資料5】はこの時間の到達目標に達しなかった生徒の学習プリントの記述内容である。最初の価値判断の記述には、「(満州に進出することによって)国をソ連やアメリカから守ることができる」というように事実認識に基づいて合理的な価値判断をしているとはいえない箇所が見られる。このことは、明治期以来の日本の外交方針が知識として身に付いておらず、満州進出とかかわらせて考えることができていないことを示している。このような単元全体にかかわる思考の基となる知識を明らかにし、事前に定着の状況を診断すれば、つまずきに応じた指導をより重点的に行うことができたのではないかと考えられる。最初の価値判断が合理的かどうかを見取り、実現状況に応じた指導を充分に行った上で意見交流を行うことができる指導と評価計画の整備が必要である。

【資料5】 到達目標に達しなかった生徒の学習プリントの記述内容

「満州をどうすべきか」 あなたが日本の首相なら、どちらの意見をとりいれますか？	
1 二人の考えをまとめよう 2 自分の意見をまとめよう	
100% 莞爾	100% 湛山
気持ちはこの辺？	
理由 満州に進出しておけば、食糧問題や鉄、石炭に困ることもないし、国をソ連やアメリカから守ることができるから。	
3 最終意見をまとめよう	
100% 莞爾	100% 湛山
気持ちはこの辺？	
理由 やはり満州に進出しておけば、日本の不況を救うことができるし、東アジアも安定するから。	

### (3) 第2年次の授業実践の方向性

第2年次は、第1年次に明らかにした「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの改善点を基に授業実践を行う。改善点は次の二点である。

一点目は、単元全体にかかわる思考の基となる知識を明らかにし、診断的評価を指導と評価計画に位置付けること。また、価値判断をするための事実認識を行う時間を十分に確保することである。

二点目は、意見を交流し合ったあとの多面的・多角的な考え方の育成状況を見取ることができるよう学習プリントを再構成することである。

#### 4 第2年次の「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づく授業実践計画と検証計画

【表6】第2年次の授業実践計画

第2年次の授業実践計画は【表6】に示すとおりである。

第2年次の授業実践	
分野	歴史的分野
学年	第1学年
単元名	古代国家の歩みと東アジア世界
期間	平成20年8月26日～9月16日
時数	10時間

【表7】は、検証内容と方法及び処理・解釈の方法を示した検証計画である。「事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力」に関してのみ、第1年次同様の方法で検証を行う。

また、社会科の学習活動に関する意識を事前・事後調査し、意識の面からも手だての有効性を検証する。

【表7】第2年次の検証計画

検証項目	検証内容	対象	検証方法	処理・解釈の方法
社会科の見方や考え方の育成状況	・事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力	生徒	同構造異単元の事前・事後テストを実施	結果について、 $t$ 検定により分析・考察を行う
社会科の学習活動に関する意識の状況	・資料から事実をとらえることについて ・事実と事実の関係をとらえることについて ・事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえることについて	生徒	評定尺度を用いた質問紙法を事前事後に実施	結果について、 $\chi^2$ 検定により分析・考察を行う

#### 5 第2年次の「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づく授業実践の結果及び分析と考察

第2年次の授業実践では、改善した「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランが、第1年次に有効性が確認できなかった「事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力」の育成に有効であるのかを検証した。その結果、「事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力」を育成する手だてとしても有効性を確認することができた。以下、授業実践の概要及び分析と考察を述べる。

##### (1) 授業実践の概要

本授業実践における単元のねらいは、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組が整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことを理解させることである。授業実践は花巻市立矢沢中学校第1学年2学級(38人, 39人, 計77人)を対象として行った。

第1年次の授業実践から明らかになった改善点を踏まえた指導と評価計画の立案、「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る手だての準備、単元の指導過程における手だてについて、順に評価プランの概要を述べる。

##### ア 指導と評価計画の立案

【資料6】は、本実践の指導と評価計画表の一部である。改善点を踏まえ、価値判断をするための事実認識を行う時間が充分確保できるように指導計画を組み直した。

また、「診断的評価で見取る思考・判断の基となる知識」を項目として加えた。単元の学習に入る前に診断的評価を行い、以後の指導計画や個別指導に役立てる。

### イ 手だての準備

【資料7】は、本実践の学習プリントの例である。改善点を踏まえ、意見を交流し合ったあと、他者の意見から「比較・分類」「因果・関連」に関して気付いたことや考えたことを記述させる欄を設けた。この記述内容から、多面的・多角的な考え方の育成について見取る。

【資料6】診断的評価で見取る思考・判断の基となる知識を位置付けた指導と評価計画表の一部

第2章 古代までの日本 【古代国家の歩みと東アジア世界】の指導と評価計画表	
単元の指導目標	(1) 国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことに対する関心を高め、意欲的に追究している。
	(2) 聖徳太子の政治と大化の改新、律令国家の確立、撰閣政治を通して、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。
単元の評価標準	関心・意欲・態度 ・国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことに対する関心を高め、意欲的に追究している。
	思考・判断 ・聖徳太子の政治と大化の改新、律令国家の確立、撰閣政治を通して、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。
単元の評価標準	技能・表現 ・国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことに関する画像や文献などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明
	知識・理解 ・国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことを、我が国の歴史とかわる東アジアの歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。
診断的評価で見取る思考・判断の基となる知識	・時代区分 ・朝貢外交 ・東アジア隣邦 ・聖徳太子の政治

### 【資料7】多面的・多角的な考え方の育成状況を見取れるように編集し直した学習プリントの例

1年歴史 教科書 P32-33 平成20年8月28日(木) 番氏名

第2章 古代までの日本 2 古代国家の歩みと東アジア世界  
学習プリント No.【2】 大化の改新への道のり2

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

弥生 古墳(飛鳥)時代 奈良 平安時代 鎌倉 室町(戦国) 江戸時代

【学習課題】

1 聖徳太子が行った政策について調べよう。

内容	どのように天皇中心の国づくりにつながる?
1 冠位十二階	2
3 十七條の憲法	4
5 遣唐使	6

2 自分の意見をまとめよう。

私は [7] が天皇中心の国づくりに一番役立ったと思う。  
なぜなら [8]

3 友だちの考えを聞いて「なるほど」「そうか」「そのとおり」と思ったことを書いてみよう。

9

4 聖徳太子後の政治の流れ

645年 中大兄皇子と中臣鎌足らが蘇我氏を倒す。

土地と人民を直接国家が支配しようとする。(10)

政府の組織を整えて、権力の集中を目指した。

11 天皇中心の国づくりは【進んだ・停滞した】

1年歴史 教科書 P36-37 平成20年 月 日( ) 番氏名

第2章 古代までの日本 2 古代国家の歩みと東アジア世界  
学習プリント No.【5】 奈良時代の人々の暮らし2

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

弥生 古墳(飛鳥)時代 奈良 平安時代 鎌倉 室町(戦国) 江戸時代

「墾田永年私財法」の前後の土地制度の比較して、歴史の流れをとらえよう。

以前の土地制度	以後の土地制度

墾田永年私財法

「墾田永年私財法」は歴史の流れをこう変えた

友だちの考えを聞いて「なるほど」「そうか」「そのとおり」と思ったことを書いてみよう。

### ウ 単元の指導過程における手だての概要

指導と評価計画を基に授業実践を行った。社会的事象を様々な側面や立場からとらえることができる資料を準備し、その資料の読み取りから課題解決を図る授業を行った。15,16頁の【資料8】【資料9】は、意見交流をとおして多面的・多角的な考え方の育成を目指した授業の概要である。

【資料8】授業の概要3

- 1 本時の目標 聖徳太子の政治や大化の改新の過程について、当時の東アジアの情勢とかがわからせて理解する。  
 2 展開

段階	学習活動	評価規準と 実現状況に応じた指導計画	授業場面での指導と評価の実際												
導入	1 前時の学習内容を確認する 2 本時の学習課題を設定する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         聖徳太子が行った政治は、どのように天皇中心の国づくりにつながったのだろうか                     </div>		<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p><b>【生徒の学習プリント記入例】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習課題】 聖徳太子が行った政治は、どのように天皇中心の国づくりにつながったのだろうか。</p> <p>1 聖徳太子が行った政策について調べよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 40%;">内 容</th> <th style="width: 50%;">どのように天皇中心の国づくりにつながる？</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">冠位十二階</td> <td>家柄にとらわれず才能のある人物を役人に取り上げる制度</td> <td>天皇のまわりに才能がある人物が集まると天皇の力が強まる</td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">十七条の憲法</td> <td>役人の心構えを示したものだ</td> <td>天皇命令をきくように豪族に示しているところがある</td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">遣隋使</td> <td>中国の進んだ制度や文化を学ぶ使節</td> <td>進んだ文化や皇帝が中心の国の制度を学ぶことは天皇中心の国づくりに役立つ</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 自分の意見をまとめよう。 私は <input type="text" value="遣隋使"/> が天皇中心の国づくりに一番役立ったと思う。なぜなら <input type="text" value="隋は世界で最も進んだ文化や政治のしくみをもっている国のひとつで、日本の天皇や豪族たちへの影響も大きかったと思うから。"/> 。</p> <p>3 友だちの考えを聞いて「なるほど」「そうか」「そのとおり」と思ったことを書いてみよう。 <input type="text" value="対等な外交を目指すことが、日本の天皇の力の強さを示すことにつながるという意見は「そうか」と思った。そういう面からも遣隋使が一番役に立ったのではないかと思った。"/></p></div> </div>		内 容	どのように天皇中心の国づくりにつながる？	冠位十二階	家柄にとらわれず才能のある人物を役人に取り上げる制度	天皇のまわりに才能がある人物が集まると天皇の力が強まる	十七条の憲法	役人の心構えを示したものだ	天皇命令をきくように豪族に示しているところがある	遣隋使	中国の進んだ制度や文化を学ぶ使節	進んだ文化や皇帝が中心の国の制度を学ぶことは天皇中心の国づくりに役立つ
	内 容	どのように天皇中心の国づくりにつながる？													
冠位十二階	家柄にとらわれず才能のある人物を役人に取り上げる制度	天皇のまわりに才能がある人物が集まると天皇の力が強まる													
十七条の憲法	役人の心構えを示したものだ	天皇命令をきくように豪族に示しているところがある													
遣隋使	中国の進んだ制度や文化を学ぶ使節	進んだ文化や皇帝が中心の国の制度を学ぶことは天皇中心の国づくりに役立つ													
展開	3 学習の視点を確認する 4 学習課題について調べ、発表する <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;">                         (1) 「冠位十二階」「十七条の憲法」「遣隋使」がどのように天皇中心の国づくりにつながったのか資料から読み取り、発表する                          (2) 「冠位十二階」「十七条の憲法」「遣隋使」の中でどの政策が天皇中心の国づくりに一番役立ったと思うか理由を添えてまとめる                          (3) 他の生徒と意見を交流する                          ・立場を明らかにして、その根拠を述べる                          (4) 聖徳太子後の政治の流れをとらえる                     </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【思考・判断】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聖徳太子の政治改革と中央集権国家を目指した国づくりとのかかわりを学習プリントに記入している</li> <li>教科書から各政策の内容を確認させ、どんな点が豪族の力を抑え、どんな点が天皇の力を強めることになるのかという視点から考えさせる</li> </ul> </div>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p><b>【実現状況に応じた指導】</b></p> <p>社会的思考の基となる知識が身に付いているか単元前に診断的評価を行った。その中の定着度が高い「聖徳太子の政治」に関しては簡単に確認するとどめ、定着度の低い「朝貢外交」に関しては調べ学習時に読み物資料を用意し、遣隋使の派遣の意義を多面的に考えさせる手だてを組んだ。</p> <p>また、どんな点が豪族の力を抑えるのかという視点で考えにくい生徒に対しては、どんな点が天皇の力を強めることにつながるのかという視点の方から順に考えさせた。</p> </div>												
終末	6 本時の振り返りを行う ・本時の学習内容について関心をもったことや新たに疑問をもったことをまとめる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>天皇中心の国づくりの必要性や聖徳太子の政治や大化の改新の過程について関心や疑問をもったことをシートに記入している</li> <li>聖徳太子の政治や大化の改新の過程に関する記述に対して価値付けをする。またその後の政治改革の様子や東アジアとのかかわりに関心がつながるコメントを記入する</li> <li>社会的な見方や考え方の育成過程のつまりの状況から次時の指導の重点化や改善につなげる</li> </ul> </div>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p><b>【振り返りシートの記述内容】</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         今日の学習の「なるほど!」「そうか!」                          聖徳太子の政治と天皇中心の国づくりとのかかわり (50人)                          聖徳太子以後の天皇中心の国づくり (22人)                     </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         新たな疑問やもっと調べてみたいこと                     </div> <p>天皇中心の国づくりの行方について (49人)                      聖徳太子の人物像について (13人)                      その後の東アジア情勢について (3人)                      中大兄皇子の人物像について (3人)                      空欄 (5人)</p> <p><b>【実現状況に応じた指導】</b></p> <p>空欄が見られる生徒の振り返りシートには、歴史の流れやつながりを意識して学習を行うことが、新たな疑問や関心につながる旨のコメント記入した。</p> <p>また、新たな疑問の内容が以後の学習につながっている生徒の振り返りシートには、歴史のつながりに気付いた点や次時以降の学習の視点をもてた点を高く評価するコメント記入した。</p> <p>このように社会的な見方や考え方を育成させるときに意識すべき学習の視点を、コメントや声かけによって価値付けすることを繰り返した。</p> </div>												

【資料9】授業の概要4

1 本時の目標 初期荘園が広がり始めた背景について理解する。			
2 展開			
段階	学習活動	評価規準と 実現状況に応じた指導計画	授業場面での指導と評価の実際
導入	1 前時の学習内容を確認する 2 奈良時代の農民の生活にか かわる資料の読み取りを行う 3 本時の学習課題を設定する  なぜ農民たちは自分の土地を 捨てて離れていくのだろうか		<p><b>【生徒の学習プリント記入例】</b></p>
	3 学習課題に対する予想を考 え、発表する 4 学習の視点を確認する  5 学習課題について調べ、発表 する (1) 奈良時代の農民の負担に ついて調べる (2) 口分田不足の対応策につ いて調べる	<p><b>【思考・判断】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・墾田永年私財法の前後の律令国家の様子を比較し、その変化について学習プリントに記入している</li> </ul>	
展開	(3) 墾田永年私財法の歴史的 意義を考え、発表する ・墾田永年私財法の施行は土 地制度の転換点であり、初 期荘園の広がりをもたら した  (4) 発表を聞いて気付いたこ と、考えたことをまとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公地公民の考え方とその目的を確認し、律令制度とのかかわりから大きな歴史の流れの変化を考えさせる</li> </ul>	<p><b>【振り返りシートの記述内容】</b></p> <p>今日の学習の「なるほど!」「そうか!」 墾田永年私財法の意義 (47人) 農民の負担 (29人) 奈良時代の特徴 (12人)</p> <p>新たな疑問やもっと調べてみたいこと 貴族の勢力について (37人) 天皇中心の国家の行方について (19人) 平安時代の政治の様子について (17人) 奈良時代の農民の生活について (14人) 荘園の様子について (8人)</p> <p><b>【実現状況に応じた指導】</b></p> <p>歴史の流れやつながり、変化など社会的な見方や考え方を育成させるときに意識すべき学習の視点をコメントや声かけによって価値付けすることを繰り返したことにより「空欄」がなくなり、次時につながる関心や疑問も増えた。</p> <p>また、意見交流において「貴族が栄えていきかけになったのでないか」「天皇中心の国のあり方はどうなっていくのか」「農民の立場からからも負担が減っていいのではないか」など多面的・多角的な考察をさせることにより、次の時代への変化やつながりに興味・関心が高まった。</p>
	6 本時の振り返りを行う ・本時の学習内容について関 心をもったことや新たに疑 問をもったことをまとめる	<p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期荘園が広がり始めた背景について関心や疑問をもったことをシートに記入している</li> <li>・初期荘園が広がり始めた背景に関する記述に対する価値付けする その後の律令制度の行方への関心につなげるコメントを記入する</li> <li>・社会的な見方や考え方の育成過程のつまずきの状況から次時の指導の重点化や改善につなげる</li> </ul>	
終末			

(2) 社会的な見方や考え方の育成状況

社会的な見方や考え方の育成状況を見取るために、矢沢中学校第1学年の生徒に対して、構造を同じにした授業実践の単元における単元テストと前単元の単元テストによる事前・事後テストを行った。【表5】は、「事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力」の得点結果である。

また、社会科の学習活動に関する意識の状況を見取るために事前、事後に意識調査を行った。社会的な見方や考え方に必要な力にかかわる学習活動に関する意識について質問した。【資料10】にその質問内容を示す。回答は四件法とし、「いつもそうしている」を4点、「ときどきそうしている」を3点、「あまりそうしていない」を2点、「まったくそうしていない」を1点とした。【表6】は、平均値2.5以上を+反応、2.5未満を-反応として人数の結果をまとめたものである。これらの結果を基に分析と考察を述べる（有効回答は72人であった）。

【表5】事前・事後テストの得点結果

n=72

必要な力	項目	事前平均	事後平均	t 値
	事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力（満点6）	2.50	3.37	4.47*

\* p<.05

【表6】社会科の学習活動に関する意識調査の結果

n=72

内容		+	-	<sup>2</sup> 値
資料から事実をとらえることについての意識	+	52	2	10.88*
	-	16	1	
事実と事実の関係をとらえることについての意識	+	49	1	15.21*
	-	18	4	
事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえることについての意識	+	40	1	19.17*
	-	22	9	

\* p<.05

【資料10】質問紙の内容

資料から事実をとらえることについての意識について

- 1 授業中、この時間は何を学習するのか(学習課題)を理解して学習していますか
- 2 学習課題を解決するために、何を調べればいいのか考えて学習していますか
- 3 資料やグラフ、写真などから「なぜだろう」「どうしてだろう」と考えて学習していますか
- 4 資料やグラフ、写真などから、分かることを読み取りながら学習していますか

事実と事実の関係をとらえることについての意識について

- 5 出来事と出来事のあいだには、どんな共通点があるか考えて学習していますか
- 6 出来事と出来事は、どのように影響し合っているのか考えて学習していますか
- 7 時代と時代のあいだや、出来事と出来事のあいだに、どんな変化があるか考えて学習していますか
- 8 学習した時代は、どんな特徴をもった時代か考えていますか

事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえることについての意識について

- 9 学習した出来事や時代、人物などについて自分の考えをまとめていますか
- 10 学習した資料や友だちの意見などを参考にして、自分の考えをまとめていますか
- 11 学習したことから、「もっと調べてみたい」「ここはどうなっているのだろう」と新たな疑問や関心をもっていますか
- 12 歴史で学習したことが現在の生活や社会とのつながりを考えていますか

## ア 事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力の育成状況

事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力にかかわる事前と事後のテストの得点について、差異を確かめるためにt検定を行った。その結果、事後テストの得点は事前テストの得点より有意に高い( $t=4.47$ ,  $df=71$ ,  $p<.01$ )ことが示唆された。

すなわち、事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力は、授業実践の事後において事前より育成されたと考えられる。

これは、思考・判断の基となる知識の定着状況を診断的に評価し、その実現状況に応じて価値判断をするための事実認識を行う時間を確保したためと考えられる。

また、意見交流の後に学習プリントに他者の意見から気付いたことや考えたことをまとめさせ、この記述内容から多面的・多角的な考え方の育成が図られているか見取った。うまくまとめることができている生徒に対しては、他者の意見が「どんな内容か」「根拠とする資料は何か」「どんな立場から考えているか」をポイントを示し考えさせ、自分の意見との違いをとらえさせる指導を行った。

このような指導と評価によって【資料11】のような学習プリントへの記述が見られるようになった。この記述内容から、社会的事象が様々な側面をもっていることや立場によって見方が変わることを生徒がとらえている様子が分かる。このように判断の根拠を多面的・多角的にとらえることで一面的な判断にとどまらない合理的な価値判断が行われ、価値をとらえる力の育成につながったと考えられる。

### 【資料11】学習プリントの記述内容

n=71

墾田永年私財法の前後の土地制度を比較して、歴史の流れをとらえよう

友だちの考えを聞いて「なるほど」「そうか」「そのとおり」と思ったことを書いてみよう。

- ・歴史の大きな流れに気付いた記述(19人)  
(例)奈良時代のなかに次の貴族が栄える平安時代のきっかけとなるできごとがあったという意見は、とても大きな歴史の見方だと思った。
- ・立場によって見方が変わることに気付いた記述(17人)  
(例)天皇側から見ると天皇中心が弱まるけど、貴族たちからしてみると自分たちの力を伸ばすことになり、だれの立場から見かで、その影響の意味が違ってくと思った。
- ・律令制の衰退に気付いた記述(13人)  
(例)私有地が広がり公地公民がしだいに行われなくなったことが、班田収授や公地公民を基本とする律令制という政治のしくみを弱めるという考えはなるほどと思った。
- ・現在につながる視点に気付いた記述(13人)  
(例)土地を私有できるのは今では当たり前だけど、ひょっとしたらこのできごとがスタートだったのではないかという意見はなるほど思った。このできごとから現在までの土地制度の流れをみると、また今回とは違った意見になるのではと思った。
- ・貴族の力の増大に気付いた記述(9人)  
(例)荘園の広がるきっかけとなったということは私と同じだったけど、それが貴族の力の広がりを表すという部分は、なるほどと思った。

## イ 社会科の学習活動に関する意識の状況

事前と事後の社会科の学習活動に関する意識について、変化を確かめるために<sup>2</sup>検定を行った。その結果、-反応から+反応に変化した人数は、+反応から-反応に変化した人数より有意に多いことが示唆された(前頁【表6】)。

すなわち社会科の学習活動に関する意識は、授業実践の事後において事前より育成されたと考えられる。

学習プリントを使った学習に関するアンケート調査を生徒を対象として行った。「学習プリントは、

出来事のかかわりやつながり，変化を考えることに役立ったと思いますか」という質問について，「思う」「どちらかといえば思う」「どちらかといえば思わない」「思わない」から選択させ，併せてその理由を記述させた。【資料12】はその理由を分類し，まとめたものである。72人中71人が，役に立ったと答えている（「思う」44人，「どちらかといえば思う」27人）。

【資料12】学習プリント使った学習に関するアンケート調査の記述

n=72(複数回答)

「資料から事実をとらえる力」にかかわる理由

- ・何を調べ，何を考えればいいのかははっきりしているから(14人)
- ・資料から分かったことや読み取った内容をまとめることができるから(6人)

「事実と事実の関係をとらえる力」にかかわる理由

- ・図などを使うと，比べたり，つながりを考えたりしやすいから(22人)
- ・原因や結果など順をおって考えることができるから(12人)
- ・考えをまとめる方法が分かるから(10人)
- ・考えたようすをあとから復習できるから(8人)
- ・まとめ方が参考になったから(2人)

「事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力」にかかわる理由

- ・他人の意見を聞いて自分の考えをさらに深められるから(14人)
- ・いろいろな視点で考えることができるから(6人)

その他の理由

- ・見やすく，分かりやすかったから(13人)
- ・ノートでもまとめられるから（「どちらかといえば思わない」の理由）

【資料12】の内容から，ほとんどの生徒が学習プリントのよさを社会的な見方や考え方に必要な力にかかわる学習活動と結び付けて感じていることが分かる。このことから必要な力を意識しながら学習プリントを使って指導と評価を行ったことが，社会科の学習活動に関する意識の育成につながったと考えられる。

また，振り返りシートを使った学習に関するアンケート調査を生徒を対象として行った。「振り返りシートは，学習を振り返ったり，新たな興味や疑問を整理したりするのに役立ったと思いますか」という質問について【資料12】と同様に記述させた。【資料13】はその理由をまとめたものである。72人中72人が，役に立ったと答えている（「思う」47人，「どちらかといえば思う」25人）。

【資料13】振り返りシート使った学習に関するアンケート調査の記述

n=72(複数回答)

- ・先生のコメントで歴史を勉強するのに何が大事なことなのか分かるから(20人)
- ・コメントが返ってくるとやる気が出るから(13人)
- ・振り返ることで歴史のつながりが分かるから(13人)
- ・次の時間の興味につながるから(10人)
- ・疑問や関心を忘れないうちにメモできるから(8人)
- ・疑問や新しい発見が次の学習につながるから(7人)
- ・その時代の全体像がつかみやすいから(2人)
- ・今日何を勉強したのか分かるから(16人)
- ・学習を短い言葉でまとめることは，学習の整理につながるから(7人)
- ・自分の感想や考えの変化が分かると学習が楽しくなるから(8人)
- ・自主的に学習したくなるから(5人)
- ・真剣に授業に臨まないと疑問や興味はわいてこないのので，集中できるようになったから(2人)

【資料13】の内容から，指導者のコメント記入を肯定的に受け止め，次時につながるような視点をもって疑問や興味を振り返りシートにまとめようとしていることが分かる。このことから，振り返りシートの記入内容について社会的な見方や考え方に必要な力にかかわる部分を評価し，コメントを返して意欲付けを行ったことが，社会科の学習活動に関する意識の育成につながったと考えられる。

ウ 社会的な見方や考え方と社会科の学習活動に関する意識の関係

社会的な見方や考え方に関する事前・事後テストの得点と社会科の学習活動に関する意識の変容の関係を調べるために、意識の変容のカテゴリーごとに事前・事後テストの得点についてt検定を行った。

具体的には、意識の変容について、事前・事後とも+反応だった生徒を「GG」、事前が+反応、事後が-反応だった生徒を「GP」、事前が-反応、事後が+反応だった生徒を「PG」、事前・事後とも-反応だった生徒を「PP」とカテゴリーを設け、社会的な見方や考え方に必要な力ごとに事前・事後テストの得点についてt検定を行った。

その結果、「GG」と「PG」の生徒について、「事実と事実の関係をとらえる力」と「事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力」の事後テストの得点は、事前テストの得点より有意に高いことが示唆された(【表8】、【表9】)。

すなわち、意識の高さが「事実と事実の関係をとらえる力」や「事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力」に影響していると考えられる。

なお、「資料から事実をとらえる力」について有意差は確認できなかった(【表7】)。これは7点満点のテストにおいて、事前テストの全体の平均点が5.01点と高く、授業実践以前から「資料から事実をとらえる力」が高い水準であったためと考えられる。

また、授業実践後の社会的な見方や考え方に関する事後テストの得点と社会科の学習活動に関する意識の関係を調べるために、事後テストの得点と事後の意識の得点について、ピアソンの積率相関係数の有意性検定を行った。

その結果、事後テストの得点と意識の得点との間に有意な正の相関が認められた(【表10】)。

すなわち、授業実践の事後において、意識の育成状況と社会的な見方や考え方の育成状況はかわりが深いと考えられる。

0.70  $r < 1.00$ ・・・強い正の相関がある  
0.40  $r < 0.70$ ・・・正の相関がある

【表10】社会的な見方や考え方に必要な力と意識の相関係数(r)

意識	必要な力	資料から事実をとらえる力	事実と事実の関係をとらえる力	事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力
資料から事実をとらえることについての意識		0.72*		
事実と事実の関係をとらえることについての意識			0.65*	
事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえることについての意識				0.66*

【表7】資料から事実をとらえることについての意識の変容と事前・事後テストの変容の関係

カテゴリー	事前テスト平均 (満点7点)	事後テスト平均 (満点7点)	t値
GG	5.09	5.26	1.25, ns.
GP	3.00	3.00	0.87, ns.
PG	5.12	5.43	0.00, ns.
PP	3.00	3.00	1.15, ns.

【表8】事実と事実の関係をとらえることについての意識の変容と事前・事後テストの変容の関係

カテゴリー	事前テスト平均 (満点6点)	事後テスト平均 (満点6点)	t値
GG	2.49	3.55	5.52*
GP	3.00	4.00	標本数1のため 得点のみ示す
PG	2.16	3.11	2.97*
PP	1.00	1.25	0.52, ns.

\*  $p < .05$

【表9】事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえることについての意識の変容と事前・事後テストの変容の関係

カテゴリー	事前テスト平均 (満点6点)	事後テスト平均 (満点6点)	t値
GG	2.60	3.62	4.02*
GP	1.00	2.00	標本数1のため 得点のみ示す
PG	2.68	3.63	2.33*
PP	1.77	1.77	0.00, ns.

\*  $p < .05$

6 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する研究のまとめ  
ここでは、本研究で作成した「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づいた実践の分析・考察から明らかになったことを述べる。

(1) 「関心・意欲・態度」の指導と評価について

本研究では、「関心・意欲・態度」の指導と評価について、認知面とかがかわらせた見取りの視点から評価規準を設定し、シートの記述内容から単元をとおしての変容を見取り、実現状況に応じた指導を行う評価プランが、社会的な見方や考え方の育成に効果的であることが確認された。

本実践においては、学習を進めるにあたって指針となる情報（学習課題、学習の視点、学習方法など）を確認したり、振り返りシートをとおして社会的な見方や考え方に必要な力を評価し価値付けることによって、何が社会科の学習において大切な見方や考え方なのかを繰り返し指導したりしたことが、社会的な事象に対する関心を高めたと考える。

また本研究では、社会的な見方や考え方に必要な力とその必要な力にかかわる生徒の意識との間に正の相関関係が確認された。このことは、意識付けを行ってから社会的な見方や考え方に必要な力を付けさせるという指導手順から考えると、生徒に社会的な見方や考え方に必要な力の重要性を意識させることが、社会的な見方や考え方の育成に効果的であるということを示唆している。この意識と社会的な見方や考え方に必要な力の因果関係については、目的や意義、具体性を伴った目標設定が遂行能力を向上させるという E.A. ロック(1984)の目標設定理論からも説明できるものと考ええる。

すなわち、本実践において、振り返りシートをとおして社会的な見方や考え方について価値付けを行ったことは、意欲を高めただけではなく、その意欲が支えとなって社会的な見方や考え方の育成につながったと考えられる。

(2) 「思考・判断」の指導と評価について

本研究では、「思考・判断」の指導と評価について、「比較・分類」「因果・関連」の見取りの視点から評価規準を設定し、プリントの記述内容や評価問題によって変容を見取り、実現状況に応じた指導を行う評価プランが、社会的な見方や考え方の育成に効果的であることが確認された。

実践において、指導者が「比較・分類」「因果・関連」の視点から学習活動における生徒の具体的な姿を明確にもち、学習プリントを使用して「比較・分類」「因果・関連」を生徒に意識させながら授業を行った。その結果、19頁【資料12】に見られるように、生徒も「考え方」を意識するようになり、「比較・分類」「因果・関連」の視点から「思考・判断」を行うようになった。この「思考・判断」にかかわる学習を指導する際に大切なことは、「思考・判断」の基となる知識を与え、それが身に付いているかを見取ることである。本実践においても、診断的評価を行ったり知識の定着状況を確認したりして、共通の知識の上に「思考・判断」を行わせた。このように共通の知識があったからこそ、共通の題材について意見交流ができ、多面的・多角的な考え方の育成につながったと考える。

また、「比較・分類」「因果・関連」の視点を使って解答する単元の評価問題に取り組みさせたことによって、その定着状況を見取ることはもとより、授業において「比較・分類」「因果・関連」を意識して学習することの大切さを生徒に感じさせることができたと考える。定期テストを含めた評価問題において、指導と評価の一体化を図ることは重要であると考ええる。

## 研究のまとめ

この研究は、評価プランの作成と活用をとおして、「関心・意欲・態度」「思考・判断」の指導と評価の在り方について明らかにし、社会的な見方や考え方の育成を目指した中学校社会科の学習指導の改善に役立てようとするものである。研究の成果と課題を整理してまとめとする。

### 1 研究の成果

- (1) 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本的な考え方の検討

文献を基に、中学校社会科における社会的な見方や考え方や「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランを作成する意義と内容について検討した。この中で、社会的な見方や考え方の育成過程と「関心・意欲・態度」「思考・判断」とのかかわりを明らかにし、「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る視点と見取りの方法、実現状況の応じた指導の在り方を明らかにすることができた。これによって、中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本構想を立案することができた。

- (2) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの作成

基本構想の立案により、中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成するための「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランについて検討し、それに基づいた指導計画の作成及び指導実践の見通しをもつことができた。

- (3) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づく授業実践計画と検証計画の立案

「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づいて、指導と評価計画や振り返りシート、学習プリント、評価問題を具体化し、授業実践計画と検証計画を立案することができた。

- (4) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づく授業実践と結果の分析・考察  
授業実践の分析・考察をとおして、「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランが中学校社会科における社会的な見方や考え方の育成に有効であることが確認できた。また、生徒に社会的な見方や考え方に必要な力の重要性を意識させることが社会的な見方や考え方の育成に有効であることが確認できた。

- (5) 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する研究のまとめ

授業実践の分析・考察から明らかになったことをまとめ、「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランを活用することによって中学校社会科における指導改善が図られるという見通しをもつことができた。

### 2 今後の課題

本研究においては、歴史的分野の実践にとどまっていることから、今後、地理的分野や公民的分野についても実践をとおして「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの有効性を更に明らかにする必要がある。今後の課題としたい。

〔おわりに〕

この研究を進めるにあたって、ご協力いただきました研究協力校の先生方、生徒の皆さんに心からお礼を申し上げます。

## 【引用文献】

- 鈴木 円(2005),「小学校社会科における考える力としての思考技能育成」,『学苑 初等教育学科紀要』, pp.69-72
- 長瀬荘一(2003),『関心・意欲・態度(情意的領域)の絶対評価』,明治図書,p.83
- 堀 哲夫(2006),『一枚ポートフォリオ評価 中学校編』,日本標準,p.8
- 文部省(1999),『中学校学習指導要領 解説 - 社会編 - 』,p.19
- Bloom,B.S. et al.(1971),『Handbook on formative and summative evaluation of student learning.』, McGraw-Hill
- E.A.ロック,G.P.ラザム(1984),『目標が人を動かす』,ダイヤモンド社

## 【引用Webページ】

- 国立教育政策研究所 学習評価の工夫改善に関する調査研究  
<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>  
ポートフォリオ評価を活用した指導の改善,自己学習力の向上及び外部への説明責任に向けた評価の工夫  
[http://www.nier.go.jp/05\\_kenkyu\\_seika/seika\\_archive.html](http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/seika_archive.html)
- 文部科学省 小学校児童指導要録,中学校生徒指導要録,高等学校生徒指導要録,中等教育学校生徒指導要録並びに盲学校,聾学校及び養護学校の小学部児童指導要録,中学部生徒指導要録及び高等部生徒指導要録の改善等について(通知)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/13/04/010425.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/13/04/010425.htm)

## 【参考文献】

- 岩田一彦(1984),『地理教科書を活用したわかる授業の創造』,明治図書
- 梶田勲一(2002),『教育評価〔第2版補訂版〕』,有斐閣
- 北 俊夫(2004),『社会科の思考を鍛える新テスト』,明治図書
- 北尾倫彦(2008),『授業改革と学力評価』,図書文化,pp.201-204
- 熊本県立教育センター(2005),『平成16年度研究紀要 個に応じた指導研究を中心として』
- 佐藤貴則(2005),「社会的思考・スキルを習得させる歴史的分野の学習指導の工夫」,『岡山県教育センター 長期研修員研究報告書第58号』, p.25
- 澁澤文隆(2003),『絶対評価成功の秘訣・運用の基本』,明治図書
- 高浦勝義(2006),『ルーブリックを活用した授業づくりと評価』,教育開発研究所
- 西岡加名恵(2003),『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』,図書文化
- 山森光陽(2005),「関心・意欲・態度の目標評価の妥当性を高める」,『指導と評価』11月号,図書文化